

令和4年度 学校関係者評価報告書

学校法人本城学園 認定こども園 本城東幼稚園

1. 本園の教育目標

- ・地域の環境を活かして「元気・根気・勇気」の素地を育むことを目的としている。
- 1. 心身の健康と善悪をはじめ、道徳性を育む。
- 2. 基本的な生活習慣や躰を基盤に、温かい人間関係を育む。
- 3. 地域の人、自然、文化を大切に、心豊かな感性を育む。

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

- ・研究発表を通して、更に教育の質の向上に挑む。
- ・安全対策と危機管理を定期的に研修を行い、教職員で情報共有して意識を高めていく。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況 A:十分に成果があった B:成果があった C:少し成果があった D:成果がなかった

	評価項目	評価	取り組み状況・結果
1	保育の強化	A	・コロナ禍の中ではあったが、昨年同様ではなく、日頃の保育の充実化、また更にできることを職員で考えて質の高い保育に徹した。またポスター研修でSDGsでの取り組みを発表したことでECO活動の活性化と子ども達と世界を意識する高まりや、「生命の安全教育」の研究を通して人権についての知識が深まり保育に活かすことが出来た。保護者への性教育の推進もでき始めている。幼小交流や東西交流ではITを駆使して交流に努めた。
2	保護者支援	A	・自然を媒介にした保護者参観や保護者会の行事も少しずつ開催できるようになり、保護者同志のコミュニティも広がり始めた。保護者対応研修などを通して、傾聴の技術の向上で、子どもの相談だけではなく、保護者自身の相談も対応できるようになり信頼関係を構築している。
3	安全対策と危機管理	B	・職員の衛生管理意識と共に保護者・園児の衛生習慣も身につけてきた。危機管理においては、避難訓練も様々な角度からの訓練にも対応できるようになってきている。職員の連携の大切さを感じた。会議でのヒヤリハットも改善案と共に共有している。

4. 幼稚園評価の具体的な目標の総合的な評価結果

評価	理由
A	昨年に引き続き、健康に意識し、教職員、保護者、子ども達と共に意識し取り組むことができた。幼小交流や東西交流などリモートで行うなど、出来る方法や工夫の体制が整ってきた。保護者支援では、対面での交流ができ、話しやすい関係性を築け、子ども達の保育に活かすことができている。危機管理では避難訓練後PDCAでの意見が活発に出ており、職員の責任感と意識の高まりを感じている。今後も常に命を預かっている意識をもって取り組む必要がある。

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

5. 今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	園庭の強化	園庭を豊かな育ちの場にするために子どもと教師と共に考え、計画性をもってデザインし造りあげていく。そこには年齢・季節感・遊び込める魅力ある環境を目指す。自園の特色を再確認する。
2	ITの強化	園全体でITを導入することで、仕事の効率化を目指す。安全管理や危機管理にも対応する。また1・2歳においては、ドキュメンテーションなどお子さんの様子が伝えられるようにしていく。
3	働き方改革	ライフワークバランスを意識する心構えと、正規職員の休憩ができる環境や時間の獲得。職員の業務と保護者支援とのバランスを考え構築させていく。

6. 学校関係者の評価

- ・いつも子ども中心に考えた保育で感心します。子ども達の笑顔に先生方の思いが感じられます。
- ・子ども一人一人をととても大切にされた取り組みは本当に素晴らしいと思いました。様々な体験を目的をもって行っている様子に感銘を受けました。子どもたちの未来が楽しみです。
- ・先生方が本当に子ども達の小さな根を大切に育ててくれていると感じます。

学校関係者評価委員

印

学校関係者評価委員

印

学校関係者評価委員

印

学校関係者評価委員

印

委員会実施日

令和 年 月 日